



「ふくしる」は、「福祉」と「知る」を合わせた造語で、福祉をもっと知ってほしい、という願いを込めました。

人生をどう生きるのかを共に考える アドバンス・ケア・プランニング

人生の最終段階においてその人が望む生き方を共に考え、支援しようという「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」。利用者さんやご家族と対話を繰り返し、できる限りその要望に応えるための取り組みを進めてきた特別養護老人ホームしゃくなげ荘を取材しました。

望むケアの実現を目指して

将来、希望する医療やケア、生き方などについて、本人(患者さん・利用者さん)を中心に、ご家族や医療・ケアチームなどが繰り返し話し合い、意思決定を支援するACP。厚生労働省は「人生会議」という愛称

を付け、取り組みを推進しています。人生の最終段階において、その人がどのように生きていきたいのかを共に考え、いかに実現するかが、福祉や医療の現場では重要なテーマになっています。

鹿追町にある特別養護老人ホーム



リラクゼーション効果や緩和ケアなどの観点からアロマを用いたケアを取り入れています

ムしゃくなげ荘は、利用者さんやご家族と話し合いを重ね、希望するケアについて一緒に考える取り組みを行っています。その始まりは、しゃくなげ荘で最期を迎えることを希望する利用者さんとの関わりでした。

松田美穂施設長は「まだ施設での看取りが一般的ではなかった時代に、どうしても病院には入りたくないという利用者さんがいました。徐々に食事が取れなくなる中、ご家族と話し合いを重ね、当施設で看取することを決めました。対応に戸惑う職員もいましたが、ご家族からは、本人の思いをまっとうできた」ととても感謝されました。対話を繰り返し、思いに応えることの大切さを実感した出来事でした」と振り返ります。

このことをきっかけに、利用者さんやご家族の思いを尊重し、できる

本当の思いを引き出すために

職員への教育も重視し、看取り介護や終末期医療などに関する研修を実施しています。また、年に1回、利用者さんをしのぶ会を開き、看取りまでの関わりを振り返っています。看取りや終末期への取り組みに不安を感じていた職員も、研修や利用者さんらとの関わりを通してACPの意義を理解し、介護職としてできることを考え、行動するようになっていきました。

ACPの取り組みで大切なのが、利用者さんやご家族との関係性です。しゃくなげ荘では、入所時から対話を重ね、信頼関係の構築やご家族の理解を図った上で、ACPの話し合いを進めています。松田さんは「アセスメントシートを埋めるのが目的ではなく、いかに本当の思いを引き出すかが重要。例えば、医師が話し



松田美穂施設長は、町内の老人クラブで講演を行うなど、ACPの啓発活動も行っています

「家族であっても老いや死は話題にしにくいものですが、医療や介護が必要になる可能性は誰にでもあります。もしそうになったら、自分ならどこでどう暮らしたいのか、どういう医療やケアを受けたいのか、みんなが当事者として考え、話し合ってみてはいかがでしょうか」

しゃくなげ荘では、ご家族と継続的に面談を行い、希望する医療やケア、生活などについて話し合っています。その際に使うのがアセスメントシートです。利用者さんとの関係性、医療や介護サービスへの思い、希望する最期の迎え方などを聞き取り、記入します。内容は年2回見直ししますが、利用者さんに体調変化などがあつた時にもご家族と連絡を取り、随時見直します。また、病院での治療を経て入所する方は、心肺蘇生や延命治療などの希望の有無を記載した事前指示書があるため、医療に対する要望も把握。鹿追町国民健康保険病院と連携し、希望に沿った対応ができるようになっています。



アセスメントシートは認知症介護研究・研修センターの「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用。より使いやすい内容にするため、独自のシート作成を進めています



スタッフ間で常に利用者さんの情報を共有し、わずかな変化でもご家族に報告します

限り要望に応えようという取り組みがスタート。介護報酬として2006年に「看取り介護加算」が新設され、話し合いを繰り返し、同意を得て看取り介護を行う取り組みが評価されるようになったことも後押しになりました。

元気な時から話し合いを

ACPは利用者さんの思いを尊重することが基本ですが、介護施設に入る段階では、意思表示が難しいのが実情です。しゃくなげ荘は認知症の方の割合が高く、ご家族が本人に代わって「こういうことをしたい」と言っていた「こんなことが好きだった」と思い起こして話すケースが多いといえます。だからこそ元気なうちに家族と話し合い、意思を共有しておくことを松田さんは勧めます。



看取り介護の職員研修の様子

合いに参加する場では、遠慮をして本音が言えない方もいます。日常のケアや対話の中で、少しずつでも本当の気持ちを話していただくことを大切にしています」と話します。

介護施設だからできること

ご家族の中には、迷ったり、一度決めたことを変えてはいけないと考え方もいますが、「大切なご家族のことなのだから、迷うのは当たり前のことです」と松田さん。ご家族の迷いや戸惑いを受け止め、時には一緒に悩むことで「この施設で過ごさせてあげて良かった」と言ってもらえるように、ACPに取り組みでいききたいといいます。

「介護職はACPのチームの1員として利用者さんの人生の締めくくりに寄り添い、支えることができます。とても意義のある仕事です。今後介護施設だからこその柔軟な対応で要望に応えるとともに、ACPへの理解を広げる取り組みも続けていきたいと思ってます」

社会福祉法人鹿追恵愛会
特別養護老人ホーム
しゃくなげ荘
鹿追町北町1丁目13
TEL.0156-66-2588
<http://www.shikaoi-keiaikai.jp/shakunage/>



1980年に鹿追町立の特別養護老人ホームとして開設。1985年に町より社会福祉法人鹿追恵愛会に経営移管。2014年に増築し、全室個室の地域密着型特別養護老人ホームも開設しました。